

令和6年度 第3回 男女共同参画及び多様な性の尊重に関する審議会 議事録

- 1 日 時 令和7年1月30日（木）午後2時00分～午後4時00分
- 2 場 所 横須賀市役所 消防局庁舎4階 災害対策本部室
- 3 出席者
- [委員] 10人
- 志村委員長、飯田委員、石藏委員、井田委員、岡崎委員  
          川村委員、工藤委員、櫻井聡委員、三田委員、横山委員
- [事務局] 5人
- 市長室 井上室長
- 市長室人権・ダイバーシティ推進課 杉山課長、千葉課長補佐、川井主任、  
          川上
- [傍聴] なし
- 4 報告事項 ・男女共同参画及び多様な性を尊重する社会実現のための条例改正に関する  
          パブリック・コメント手続き結果
- 5 審議事項 （1）条例の見直しについての答申案
- （2）取組実績報告書の作成に関する継続審議事項
- ・取組実績報告の総括と次年度に向けての審議会からの提言案
- ・取組実績報告書の作成に関する各課への照会時のチェックシート案
- （3）令和7年度実施予定の市民等アンケート調査

5 議 事

開 会	
事務局	開会
市長室長	挨拶
<ul style="list-style-type: none"> <li>・審議会成立の報告</li> <li>・本日の資料の確認</li> </ul>	
審議事項	
委員長	男女共同参画および多様な性を尊重する社会実現のための条例改正に関するパブリックコメント手続きの結果を事務局から報告説明をお願いしたい。

事務局	資料に沿ってパブリック・コメントの結果報告
委員長	今の報告事項についてご意見をお願いしたい。パブリック・コメントは、多くの市民に情報公開し市民から意見をいただく手法だが、このパブリック・コメントがない理由は二つあり、一つは充実したものができているため、もう一つはあまり関心がない恐れも同時にあり、これはどちらかわかりにくい、市民感覚として少し不安に思う。良いものできていると信じ先に進むのが良いと思うが、意見がないので審議事項に入りたいと思う。条例の見直しについて答申案を事務局より説明頂きたい。
事務局	資料に沿って、審議事項1 条例の見直しについての答申案について説明
委員長	審議事項1 についてご意見いただきたい。資料2、6ページの用語解説は付けるのだろうか。
事務局	今回の資料は審議会用になる。
委員長	行政では当たり前に使っている用語だが、一般市民にとって接する機会の少ない用語なので、案外大事かもしれない、私は心遣いが感じられて良いと思う。
事務局	資料に沿って、審議事項2 取組実績報告の総括と次年度に向けての審議会からの提言案について説明
委員長	今説明があった、取組実績報告の総括と次年度に向けての審議会からの提言案について、ご意見があれば伺いたい。無いようなので次に進みたいと思う。
事務局	資料に沿って、審議事項2 取組実績報告書の作成に関する各課への照会時のチェックシートについて説明
委員長	今説明いただいたものは新しい取組は新しいものなのでご意見ご質問をいただきたい。
委員	資料3-2、2ページ下の表、改善・工夫で前年度や前回から改善を図ったかとあるが、実際シートに反映したとき、どの部分が改善・工夫されたか目的に明確に示されているのか。例えば前年度から改善という事は、課題があった形になるが、その課題が年度当初の目的の部分で明確にされているのかお聞きしたい。
委員長	どこが改善点なのかと、改善した根拠を記載すれば前年の反省につながるというところだろうか。
事務局	この表は令和5年度に報告があったものを一部参考として載せたものになる。仮に来年度所管課に照会をかけた時、チェックシートの着眼点で「はい」とした場合、具体的にどのような改善を図ったか記載するイメージになる。今回具体的な例が作れなかったが「はい」としたとき具体的に実績や評価をしっかりと書くよう例示したものになる。
委員長	おそらく今年度はこの方法で行い、来年度どのようになったか運用の仕方を整理しわかりやすく説明していただきたい。

委員	私が担当者として記入するとしたら、Excel で作られているかもしれないが、前年度記入したものが表示されている状態だろうか。情報がないと記入が大変なのではないかと思う。
事務局	具体的にまだ照会の形にしていらないが、照会をかけた時、所管課がわかりやすいよう、前年度のシートを入れ込むなど工夫はしたい。
委員	資料の着眼点の形では、成果がわかりにくいので、改善を図った結果の成果がわかるような実績の中での問いかけがある方が良いと思う。
委員長	そういう側面もあると思う。事業実績の所にどうなったか結果を書き、着眼点のところが理解かと思ったが、実績と着眼点で評価をするイメージと思う。
委員	しっかり成果を促せるような形でないと、「行った。」で終わってしまうので、成果を促せるような誘導をした方が良いのではないかと思う。もう一つ、実績評価だがどういった課題があるのか少し含めた方が良いのではないか。
事務局	この様式のイメージとしては左から右へ進むイメージになる。実績を書き、評価と理由を記入し右の次につながる課題という形です。成果や効果がわかるような促しを着眼点に入れるというご意見でよろしいか。例えば「事業実施にあたりジェンダー平等の視点を入れた、またその成果は何か」のような聞き方でよいか検討したいと思う。
委員	KPI があるとき、数値目標は別に一覧があるか。
事務局	プランには数値目標があるが、これは各課で行っている数値目標を記載する形になるので、一覧表は無い。
委員	資料の例では特に記載はないが、数値目標があるものは数値の記載も行われるのか。
事務局	その際には事業実績に具体的な数字を記載する。
委員	事業実績に記載するのか。
事務局	実績にも入るが、KPI がある場合チェックシートで「はい」とした場合、左に進むと具体的に実績や、評価のところに「はい」とした理由が入り、KPI を達成したときは数値が入ってくると見込んでいる。
委員	事業実績、先ほどの成果が KPI の数値目標がある時、それが寄与しているのか、いないのかその関連も考えられたら良いと思う。
委員長	そこに寄与したためこの数値になった実績に結び付いた評価が書いてあるかという事か。確かに数値目標が出た場合、何を行ったかで数値が上がったという直接的な効果が見えやすくなる。記載は難しいかもしれないが、わかりやすさとシンプルさとその効果が反映され、わかりやすい。両方必要なのが難しいが良い方法ができるとよい。事務局で工夫していただきたい。

市長室長	KPI があるなら見せた方がよいので、チェックシートがあるので数値がある場合しっかりできたかできなかったか一目でわかるそのようにしたいと思う。
委員長	今までの議論でも、数値で表しにくいものが多いが、数値で出せるのなら、目標として分かりやすく評価にもつながりやすいと思う。ご指摘のように数値の目標を掲げ達成したか大事だと思うので、表現できるか事務局には工夫していただきたい。 この資料3-2は審議会用に作ったものか。それとも各事業部に渡す際も目的や活用法の説明もそのまま記載するのか、簡略化するのか。
事務局	資料では照会の形にはなっていないが、具体的な内容を記載するよう、各課に照会するときこのような表現で促す予定になる。活用や目的はまだ具体的なイメージではないが、このような目的でチェックシートを作ったという事は知らせてもよいので、実際に照会するときも可能な限り反映したいと思う。
委員長	チェックシートなので、結果がどうだったのか各課に説いているが、同時にチェックしてもらうことで各課にこの事業の意味や目的など問う大事な役割があるので、目的目標の確認と啓発に繋がるシートになると思う。「はい」にチェックした場合は具体的な内容を記入とあるが、「いいえ」にした際も今後の対応を次年度どうすればよかったのか、次の目標に書いてくださいとすれば、両方生きてくると思う。 大体意見も出たので、審議事項の(3)令和7年度実施予定の市民等アンケート調査について事務局より説明を頂きたい。
事務局	資料に沿って、審議事項3 令和7年度実施予定の市民等アンケート調査について説明
委員長	来年度実施のアンケートに関して、大きい事業なので前後半に分けた。前半は前提条件について、後半はアンケートの具体的な内容で調査票を含めた中身について意見交換したいと思う。 事務局より説明頂いた調査の概要と審議会で審議してほしい項目、そして全体のスケジュールについてで、まずは全体に対するご意見頂ければと思う。
委員	いろいろ気になるころはあるが、まずアンケート調査の実施時期が8月という事について、横須賀市役所は全庁閉庁にならないと思うが、一般的に夏休みやお盆の時期になる。会社などはこの時期一斉に休業したり、帰省する人が比較的多い。なので我々が研究所などのアンケートをするときはこの時期は避ける。せつかく8月1か月期間を設けても、夏休みに気が向き、子どもがいれば夏休みでいつもと違うスケジュールで動く。 前回のアンケートもそうだったが、なぜこの時期なのか審議会の予定などから逆算していると思うが、事業所の回答率の悪さにも影響しているのではないかと思う。 もう一つ、市民アンケートのサンプリングの仕方についてイメージをお聞かせいただきたい。資料4-1、2ページ目男女各1000人を計2000人無作為に抽出するとあるが、年齢も関係なくか、10代が何人など考えながら抽出するという事かお聞かせいただきたい。
事務局	8月については前回にあわせて設定している。実際に予定を逆算していくとアンケート設計を見越しこの時期になったのではないかと思う。おっしゃる通り夏休みの時期になる、来年度中に仕上げるなら逆算すると8月になったと推測される。 年齢については、ばらつきが無いよう案分する。年齢と地域を生年月日順、地区ごとに分け案分しまんべんなく答えが出るよう、情報のシステムへ依頼し無作為抽出されたデータをもとにアンケートの対象とする。

委員	<p>これだけ素案ができていて、他の業務もあるだろうが、なぜ8月までかかるのか。年度内で審議会のスケジュールを考えて組む時こうなるのであれば、督促をかけるなり工夫が少し必要だ。</p> <p>年齢についてだが、資料の裏面に回答者の年齢区分があるが、こういった資料ではなく例えば15～19歳が元々のサンプルとして何人選ばれ、回答者が49人でその年齢層の回答率が何%だったのか。アンケートを企画するのであればデータとして欲しい。そもそも15～19歳が100人くらいしかいないのであれば回答率が良いとなるので、資料としては前回どうだったのか、工夫が必要だ。そうしたとき働き盛りの人は8月の回答率が悪いといったデータが見えてくるのではないか。</p>
委員長	<p>今の話を総合すると、この回答は、配布は均等に行っている人数で、2000人を7分割して年齢層で300人ずつ均等に行っている、しかし回答49人の世代もあれば181人の世代もある。質問のように何人送付し何人回答があったかのデータの方が重要というご指摘だ。全体の世代の比率よりそれぞれの世代でどれくらいの回答率というデータにするべきというご指摘だ。</p>
市長室長	<p>委員がおっしゃったように何人送付し何人帰ってきたかという事か。</p>
委員	<p>アンケートの時、欲しいのは回答率だ。特に回答が欲しいのに、回答率が低い年齢層を少し多めにするなど工夫の仕方もある。</p>
市長室長	<p>アンケートの時期だがおっしゃる通りで、事業者が休みやお盆の時期で埋もれてしまう。なので7月なのか9月に実施した方がいいのか。</p>
委員	<p>年度初めは異動などもあり何とも言えないが、ここまで素案ができていながら時間がかからないが、逆に分析に時間がかかるのではないか。どちらともいえないが8月は疑問に思う。</p>
委員長	<p>素案もここまで出来ているので、検討いただきたい。</p>
事務局	<p>参考に前回の県内他市のアンケートは8月に行われているものは無い。実際に回答率は大きな課題で、8月に実施して回答率を下げたままでは意味がないのでできる範囲で対応したい。</p>
事務局	<p>前回の回答率について15歳から19歳が32.2%。対象は150人。20歳以降は全て308の配布になる。それぞれ15.4%という割合で308配布している。20歳から29歳が26.6%、30歳から39歳が37.3%、40歳から49歳46.4%、50歳から59歳が52.6%、60歳から69歳が56.5%、70歳から79歳が58.8%となっている。</p>
委員長	<p>年齢が上がっていくと回答率が上がっている、各年齢満遍なく意見を取れるよう工夫をしていただきたい。</p>
委員	<p>疑問点がある。事業所対象調査が従業員10人以上の市内事業所約800とあるが、令和4年より常時雇用する労働者数が101人以上の事業主は女性活躍に対する行動計画の策定や情報公表が義務になっている。従業員数の違う事業所を対象にすると取組みに対する姿勢が違うと思うが、800の事業所の中に100人以上の事業所はどれ位あるのか。</p>

委員	はっきりとはわからないが、数は少ない。商工会議所の会員では小規模企業が多い。商工会議所の会員事業所をマストで対象にするといくつかの企業があると思う。
委員長	100人以上となると横須賀では大きい事業所になる。
事務局	前回9年前のアンケートでは100人以上の企業で回答があったのは86件中13件。割合で15.1%、横須賀全体ではわからない。
委員	15～20歳の、いわゆる高校生達へのアンケートでは今現時点で、工夫などはしていないのか。無作為に抽出する方法はどのような方法で行っているのかお聞かせ頂きたい。
事務局	特に工夫はしていない。全体で高校生になる年代、15歳から生年月日で区切り、地域ごとに人数を割り振りそこからデータ上で無作為抽出する。他課でもアンケートを行っているので重ならないよう配慮している。
委員	郵送でアンケートを送っているのか。
事務局	対象者に送るのは郵送だが、回答は郵便かネットどちらかできるようにする。
委員	郵送されることに関しては、親が見て子どもまで届かないことが多いのではないかと。子どもが最初に目にするのは学校だと思うが、先生から生徒へ回答を促すよう協力を得ることは可能か。
委員	調査の方法として、対象者になる人の選び方が、住民基本台帳を母集団としてそこから選ぶ、先生を通じて渡してしまうと無作為ではなくなる恐れがある。おっしゃることはわかるが、対象者の手元に郵送で届くのがアンケートの基本だ。学校を挟むのは難しく、もし行うなら若者の対象だけ市民調査ではなく集計すべき。以前行われたことがあるが、それを市民調査にしようというのが今までの流れだ。対象が子ども達のところは学校に行っていない人もいるので困難だ。
委員長	今のところ関連して事務局に聞きたいが、郵送で送ってネットで回答できるのはどのような方法か。
事務局	来年度からのアンケートで実施する予定だが、郵便物で調査票を送り、依頼文や回答表へ二次元コードを付けアクセスするとネットでの回答票に回答できる方法を検討している。
委員長	質問の意図は回答が気軽にできるかで、大学の授業アンケートもFormsなどを使い手軽に回答できるようにしている、回答率を上げる意味でも電子化は大事だ。若い人だけでなく高齢の方でもスマホなど操作している。ぜひ回答率が上がるよう工夫していただきたい。
委員	資料4-1参考でお聞きしたい。市職員の回答率が令和3年度で71.5%と下がっている、これはコロナの影響だったのか。もう一つ市民の回答率が平成23年度40.8%だったものが5%上がっている、何か回答率が上がる工夫をしたのだろうか。

事務局	市職員の回答率が下がった理由として、平成 28 年度では部署ごとに人数を割り振り、各部に依頼し配布した形なので、無作為として各所属で行っていたようだが、回答可能な人を選んでいる可能性はある。令和 3 年度は無作為で直接職員にメールで回答を依頼したので少し下がった考える。市民の回答率については発送数が変わっているが、検証する。
委員	市民の対象者は年齢も年齢も緩和されている、そういったところを読み解くと何か違いがあると思う。後ほどでもよいかと思ったが、資料 4-1 事業所対象調査、調査の内容で負担なく厳選した調査の内容を選んでいると思うが、ここに多様な性も少し入ると良い。今年度より事業者へ多様な性に関する研修等を広げていきたいという意向もうかがっている。現在の状況を調査しておくことは今後の伸びがあるか、簡単な「はい」「いいえ」で答えられるようなものを入れていただけると、今後につながりやすい。
委員長	事業所は 800 だが、誰が答えるのか気になる。経営者なのか、人事部なのか回答者の属性等をしっかり把握した方が良い。一方労働者側はどうなのか、それが一般の女性でよいのなら市民調査の質問に仕事先に関するもう少し細かい質問が必要になるのではないかと。事業所と同時にそこで働く人の実態も本当は調べると良いとも感じる。この辺は以前も意見が出たが事務局はどう考えるか。
事務局	委員長がおっしゃったように、誰が答えるかこちらでは把握できない。事業所のアンケート内容は意識調査ではなく実態調査にしたいと考える。難しいかもしれないが誰が答えても同じ回答になるような質問にしたい、市民は意識調査でどう思うかという質問だが、事業所はあくまで実態を問うもので進めたいと思う。
委員長	以前のプランで事業所に聞くのは難しい。横須賀市は自治体自体で行政のアンケートをもって働き方のリサーチを職員に聞くという経緯があった。その流れから事業所に問えるようになり実態がわかるのは良いが、働く人の声を拾えると良い場面もあるのではないかと。
事務局	市民アンケート調査の素案について説明。
委員長	アンケートは次年度第 1 回審議会後に行われるので、全体を通じてもう一度審議する会議がある。先にアンケートの説明を続けていただき、審議が足りない分はコメントシートや事務局へ意見を寄せていただきたい。
事務局	市職員、事業所アンケートの素案について説明
委員	市民アンケートで今回用語や制度の認知度は独立して 1 項目になっている、男女共同参画は目標が 100%で行ってきていると思うが、前回 20%近く知らなかった。今回もそういった問いかけの後、男女共同参画、ジェンダー平等が進んでいるかという問いかけが出てくる。知らない市民が 20%いたとして、続く質問においてけぼりになってしまう。制度の認知度のところで最低限男女共同参画とジェンダー平等について少し解説があった方がよいのではないかと。 資料 4-2 問 6 でボリュームを絞った方が回答しやすい中で、子どものしつけが独立している意味はあるのか。家庭教育という意味なのか父親にしっかりしつけさせるものか、そうであるなら意味がない。次の問いでも似たようなものがあるので工夫した方がよい。実際回答を見ても 90%近くの男女で父親と母親で行った方がよいと出ている

事務局	用語の解説については、前回アンケートでは調査票に解説を入れながら設問を並べたが、今回は審議会用に用語を削除した。必要であれば用語を入れるよう調整したい。しつけの回答は必要か他の委員にもご意見頂きたい。
委員長	設問の上では前回・前々回でもありました。継続的に聞いてデータを取りたいのなら、残した方が良いが。
委員	主に夫というのが現在においても0.2%ぐらいで平成28年に至っても2、2%位でこの項目が不毛と思う中しつけが独立していることに少し違和感がある。
委員	同じ設問で同じように思っている。実際取って何に使うのか、研究者が家事分担で分析をするならこのような質問をするが、ボリュームのある市民アンケートで集計しても妻に偏っているという結果しか出ないものを、改善されていないとみるためには必要かもしれないが、聞くにしてもここまで細かく意見を聞く必要性は、私は見直す必要も感じる。ネット調査にした場合膨大に選択肢が出てきたとき途中でやめてしまうことも考えられるので、データとして必要なのか考える時期ではないか。 問7に関しては親からの甚大な影響があるのか取りたいような質問とも考えられる。しかし親が子への教育の価値観を問いたいという意図も見えるので、問6と問7では目線が違ふと考える。 問7は数値目標に関わってくるから難しいが、問6に関しては少なくとも現在の担い手は聞かなくてもいいのではないかと。集計しても政策に結び付かないのではないかと。家事分担や子育てに対する意識が妻や女性に向いているか、そうではなくみんなで行うものと、別の設問を取れば問7の質問は不要ではないかと。データでの活用を考えて、数値目標に絡むなら負担が少ないような形に改革してもよいのではないかと。
委員	問7に関して必要がなければ削除した方が負担は少ない。必要であるなら家庭での子どもの教育やしつけについて、という文章を除いたほうが答えやすいと考える。
委員長	しつけとは限らない。全体を見据えて作っていくと負担も減っていくのではないかと。過去の審議会の経緯を考えると、当時の専門委員の先生方に伺いながら設定しているのではないかと、当時から時代も変化している。専門の先生にご意見を聞きながら改定していてもよいのではないかと。
委員	今の設問で気になった点がある。お子さんや介護、看護する方とあるが介助はどう判断するのか。
委員長	行政の表現のルールがあるのだろうか。行政は決まった用語や使い方があるのか。
委員	私が読んで感じたのは、お子さんのケアや高齢者の介護という意味で聞いているのかと思ったが、他にも病気や障害等で介護、看護、介助が必要な方も居ると思う。そこも含めチェックして良いのか、含めないのか考える。
委員長	子ども、高齢者に特定しない方が良いという事か。そういう労働を誰がするのかその方が良いと思う。このような点も全体的にチェックする必要がある。
委員	市民アンケートと市の職員のアンケート調査の属性の部分で、対象が違うからかもしれないが、年齢層の聞き方のセグメントが少し違うかと、市職員のアンケートでは配偶者の

	有無を問うているが、市民アンケートでは結婚をしているか問うている。 市の職員では世帯の状況と問うているが、市民では中学生の同一世帯にと問うている。 対象が違うので何とも言えないが、例えば年齢を比較するとき難しく、結婚をしているかより配偶者の有無とした方が柔らかい聞き方と思う。
委員長	配慮としては大事だ。市民向けと職員向けは設定のタイミングや経緯が違う理由がある か事務局に聞きたい。揃えた方がいいのか、過去のデータもあるからか理由はあるのか。
事務局	表現や年齢区分については確認したいと思う。 結婚の表現についてはおそらく市民向けが柔らかく幅広い年齢、世代にわかりやすい表現にしている、例えば配偶者という言葉も結婚していますかという表現にしている可能性がある。
委員長	配慮かもしれないが、難しい。専門の先生方に聞き方を質問すると良い。
委員	資料4-3、1ページ⑥同一世帯に介護が必要な家族(配偶者以外)はいますか、とあるがなぜ配偶者以外とカッコ書きしているのか。どのような家族のどのような状況を想定しているのか。
事務局	おそらく前回と同じ設問になる。
委員	市民アンケートと市職員アンケートで属性の違いや、年齢も微妙に違うのは意図があるのか。仕事しているからとしても50歳代の年代は合わせた方がデータを取りやすい。分ける必要を感じない。子どもの有無についても市民と市職員では対象の分け方が大きく違う意図を聞きたい。
事務局	年齢については市民と市職員のアンケートは同じように対応を検討したいと思う。世帯の状況も差異について過去の経緯など確認し。必要な限り揃えたいと思う。
委員	市職員のアンケートは就職している人以上なのでという年齢区分もあると思うが、昇進を望む、望まないという質問で特に女性職員対して分析するとき30代より30代前半と30代後半傾向が違うと分析をする。考えると我々研究所でデータを取る時は年齢をそのまま聞くので小区分を分けられるが、選択肢で聞くときは30代前半と30代後半で聞くと30代にまとめるのは簡単なので、そこを意図しつつ市職員では細かく年齢を聞いているのではないか。 なので同様に市職員なら世帯の状況を細かく聞ける。子どもの状況など仕事との両立や昇進など関係する要因なので、子どもの年齢を細かく聞く方法もあるが、選択肢を作ることによって階層別の設問を作ったのではないかと推測する。 その意図で市職員のアンケートの方が詳細に分けてあると思う、しかし分析に使わないのであれば揃えておいた方が報告書とすると見やすさはある。それも報告書で市職員のアンケートの作り方を工夫すればよいのですべてそろえる必要はない。
委員長	事業所は県に任せて、市職員アンケートは市役所の中なので聞きやすいという経緯があったと記憶している。目的が違えば違ってもよいし、逆に目的に沿って出た結果をその形で活用する点は忘れてはいけない。
委員	性的マイノリティについて3点。 資料4-3、12ページ問24 どなたにも伝わりやすいよう身体の性、心の性と記載してい

	<p>と思うが1ページ目に注釈で性自認が出ているので問24でも括弧性自認とした方がわかりやすいのではないかと。市職員アンケートでも同様の配慮があると良い。</p> <p>13ページ問28、選択肢の表現の検討とある。私も見て難しいと思うが、他自治体のアンケートでは感覚的なものは訪ねていないところが多いと感じる。なのでこの設問は削除した方が良いのではないかと。ネガティブな意見を持つ方も居ると、現在のアメリカの動向次第では今後出てくる可能性もある。例えば問26で選択肢に対策は必要ないと、悲しいですが入れておくとか、あえて入れずにその他の括弧に入れていただく形の方が良い。</p> <p>事業所について、せっかく横須賀市ではステッカーを作っているのに、貼ってある、ない、議題になったこともない、のようなものを入れていただけると私は良いと思う。</p>
委員長	ステッカー自体を知らないも含めてですね。アンケートに関しては次回の審議会でも引き続き検討ができる。他に全体で何かご意見、ご質問あればお願いします。
委員	資料4-5事業所アンケートでは他のアンケートと違い、従業員の内訳が男性と女性のみだが、この委員会の調査として良いのか。
事務局	神奈川県男女共同参画の届け出だが、事業所の届け出は男性と女性になっている。難しいが仮に報告するとなると、カミングアウトしていないと確認取れないので、男性と女性でも良いのではないかと。
委員	注記で届け出た人数を記載するよう、届け出把握しているもので構わないと一文あった方が良いでしょう。
委員長	事務局で、本日の意見を整理していただき、質問意見を反映し、次回意見を頂きたい部分など丁寧な形で次回作っていただきたい。時間が来たので全体で何か意見があれば。無いようなので事務局より連絡事項を。
事務局	連絡事項～
委員長	令和6年度第3回の審議会を終了とさせていただきます。
閉 会	